

甘い生活 (1959)

LA DOLCE VITA

LA DOUCEUR DO VIVRE [仏]

メディア	映画
ジャンル	ドラマ
製作国	イタリア／フランス
色彩	B&W
時間	185分
初公開日	1960/09/20
公開情報	イタリフィルム
映倫	G
リバイバル	1982/06 [ジョイパック] 2001/01 [ザジフィルムズ]

【解説】

強烈な通俗性の中に、豊潤な映像美学を開花させ、一つの大都市をこれだけ魅力的に捉えた作品は他にない。この映画の主演は間違いなくローマそのものだ。無論、M・マストロヤンニという最適の語り部を用意してはいるが。作家志望の夢破れて、今はしがたいゴシップ記者のマルチェロは豪華なナイトクラブで富豪の娘マッダレーナ（A・エーメ）と出会い、安ホテルで一夜を明かす。ハリウwoodsのグラマー女優（A・エクバーグ）を取材すれば、野外で狂騒し、トレビの泉で戯れる。乱痴気と頹廢に支配された街ローマ。同棲中のエンマは彼の言動を嘆く。二人で訪れた友人スタイナー一家の知的で落ち着いた暮らしぶりを羨むマルチェロだが、彼らも子連れの無理心中で突如死に、残るは絶望の実感のみ。いよいよ狂乱の生活に没入するマルチェロは海に近い別荘で仲間と淫らに遊び耽る。彼らが享樂に疲れ果てた体を海風にさらす朝、マルチェロは波打ち際に打ち上げられた怪魚の、悪臭を放って腐り果てるさまを凝視した。彼方で顔見知りの可憐な少女ヴァレリアが声をかけるが、波音に消されて聞こえない。かくて純粋な青春の時は終わったのか……。素晴らしいラストシーンを持った、フェリーニにしか描けない都市のデカダンスが弾ける。N・ロータの音楽も多様な変奏を聴かせ、映画と完全に溶け合っ

【クレジット】

監督	フェデリコ・フェリーニ	Federico Fellini	
製作	ジュゼッペ・アマト	Giuseppe Amato	
	アンジェロ・リッツォーリ	Angelo Rizzoli	
原案	フェデリコ・フェリーニ	Federico Fellini	
脚本	フェデリコ・フェリーニ	Federico Fellini	
	エンニオ・フライアーノ	Ennio Flaiano	
	トゥリオ・ピネッリ	Tullio Pinelli	
	ブルネッロ・ロンディ	Brunello Rondi	
撮影	オテッロ・マルテッリ	Otello Martelli	
編集	レオ・カトッツォ	Leo Gatozzo	
音楽	ニーノ・ロータ	Nino Rota	
出演	マルチェロ・マストロヤンニ	Marcello Mastroianni	マルチェロ・ルビーニ
	アニタ・エクバーグ	Anita Ekberg	シルヴィア
	アヌーク・エーメ	Anouk Aimee	マッダレーナ

イヴォンヌ・フルノー	Yvonne Furneaux	エマ
マガリ・ノエル	Magali Noel	ファニー
アラン・キューニ	Alain Cuny	シュタイナー
アニベイル・ニンチ	Annibale Ninchi	マルチェロの父
ウォルター・サンテッソ	Walter Santesso	パパラッツォ
バレリア・チャンゴティーニ	Valeria Ciangottini	パオラ
リカルド・ガローネ	Riccardo Garrone	リカルド
アイダ・ガリ	Ida Galli	
ポリドール	Polidor	
ミーノ・ドロ	Mino Doro	
ラウラ・ベッティ	Laura Betti	
ニコ	Nico	ニコ
レックス・バーカー	Lex Barker	ロバート
ジャック・セルナス	Jacques Sernas	セルナス
ナディア・グレイ	Nadia Gray	